

《第6分科会》

子どもの健やかな身体づくりを目指した保育のあり方を考える  
～しなやかな心と体の発達につながる遊びを考える～

認定こども園 鳥取第一幼稚園

発表者 成川 洋子

指導助言者 鳥取短期大学 学長 松本 典子

司会者 三中 弘志

記録者 檀原 智子 寺西 典子

～研修レポートのまとめ～

【本研修会を受講して学んだことについて】

保育教諭の援助

- ・ 保育教諭が誘って一緒に楽しんでいくことが大事だと感じた部分や、体力づくりや運動遊びを保育の中にたくさん取り入れているところもいいなと思った。
- ・ 子どもの気持ちに寄り添って考え、援助をすることによって、体を動かすことに興味をもち、意欲に繋がるきっかけになると分かった。
- ・ 実践事例では、保育教諭の一人ひとりに合った声かけや援助、周りの環境に触れながら自信をもち、遊びに意欲的になっていく子どもの姿があり、育てほしい姿につながっていた。
- ・ 保育教諭の関わりが大切で子どもたちの成長に欠かせないことだと改めて学んだ。
- ・ 運動遊びを楽しんだり、育てたい子どもの姿や身に付けたい力につなげる為に、保育教諭は色々な体の動きを経験する保育の環境作りや、心へのアプローチの視点が子どもの育ちにとっても大切であることや、保育教諭の役割の大切さや在り方について、とても勉強になった。
- ・ 保育教諭や周りの大人の関わり方や言葉がけの仕方で子ども達の力や心の動きに大きく関係することを改めて感じた。
- ・ 「心が体を動かす」という言葉のように、心と体は密接に関係していると感じた。また、心と体の両面での課題を解決するために、遊びや言葉のかけ方の工夫をすることが大切だと学んだ。
- ・ 運動の苦手な子どもの心に寄り添う内容や運動すること自体が楽しいと感じられる保育に焦点を当てていることが心に残った。

保育教諭の思い、ねらい

- ・ 技術やネットワークも進歩していき外で遊んだりする事が少なくなっている子どももいることから、保育教諭が子ども達に自信をもって体を動かしていけるように記録表を作って目に見える形で自分の今の力を認識するようにした。少しずつでも向上する気持ちをもってほしいという保育教諭の願いが込められている素晴らしい取り組みだと思った。
- ・ 保育教諭が活動のねらいを定めて取り組むことや保育の質をあげることの大切さを学んだ。
- ・ 大人の感覚だと、できるまでの過程が大切だとわかっていても、できる・できないで判断し、出来た楽しさを強く求めてしまいがちになるが、まずは”運動すること自体が楽しい”と思える経験を積んでいくが大切だと改めて感じた。
- ・ 保育者の思いやりが先行しないように、自然と身体を動かすことのできる環境構成の工夫、アイデアの大切さを改めて痛感した。

## 子どもの実態把握

- ・ 子ども達の実態として運動遊びへの意欲の差があることから簡単な運動遊びを経験し、できた喜びを積み重ねたり、自ら挑戦する意欲をもつことが大切であると思った。
- ・ 遊びを中心とした活動、しなやかな心と体の発達を重点に置き、今の子ども達の実態を把握し、そこから無理に繋げていくのではなく、遊びの延長線として、繋がりのある活動を考えていく必要性を学んだ。
- ・ 課題を園全体で見つめ、各年齢の実態と課題を把握して子ども達の遊びを見直し、育ちに合わせた取り組みをしている点がとても参考になった。
- ・ 子どもの実態を把握し、具体的にどのような力を育てたいのか保育教諭がしっかりとねらいをもって遊びを考えることの大切さを感じた。
- ・ 運動経験が乏しくなっていく中で、保育教諭が危機感を感じながら意識をもって運動することの楽しさをいかに伝えていくかが大切であると感じた。
- ・ 運動そのものが出来るか、出来ないか、という視点ではなく、一人ひとりの子どもが運動を楽しめているかどうか、好きかどうかに着目することが心への働きかけでは大切であることを学んだ。
- ・ 研究テーマをどう理解するか、手段や観察などのP D C Aが細かく分析されて、園全体の課題としての取り組みは勉強になった。

## 環境構成、設定

- ・ 近年、体を動かして遊ぶ場所、場面が減少し、子ども達の体の動きや支える力、柔軟性に弱さを感じる部分はある。園の中で、まずは楽しいと思える経験をたくさん積み、「やりたい！やってみよう！」と思える環境構成を整えることの重要性を感じた。
- ・ 「しなやかさ」という言葉を考えると柔軟さ、ということがまず頭に浮かんだが、それだけでなく、身体を支える力強さ、諦めない心もあることを学び、そのような力をつけていくためにはやはり、保育の環境や遊びの設定等の大切さを改めて感じた。
- ・ 経験の差があったり、意欲の差もありますが、その部分を保育の中でどのように改善し、保育教諭が促したり達成感を得られるような環境設定をするかがとても大切だと分かった。
- ・ 自分から簡単に取り組める環境や毎日の日課があることで、友達に影響されたり、挑戦する意欲に繋がると学んだ。

## 心の育ち

- ・ 最初のY児の姿から保育教諭や友だちとのやりとりの中で、成長が感じられ、家族の支えもあり、できないことを諦めない、失敗しても立ち直る心の強さが育ってきたのだと見させてもらい嬉しい気持ちになった。これらがしなやかな心と体につながっていくのだと学びの深い研修となった。
- ・ 自分の力だけではなく友達の姿に刺激を受け挑戦していく子どもも増えていき、自分で挑戦する意欲に繋がっていく。このような良い循環が生まれる環境を整えていく大切さを感じることができた。いろいろな考え方を受け入れ、試してみる多様性や心の柔軟性、自分自身の力を高めようとする自己肯定感を高めることで子ども達のしなやかな心が生まれていくのだと思った。
- ・ 自分から簡単に取り組める環境や毎日の日課があることで、友達に影響されたり、挑戦する意欲に繋がると学んだ。
- ・ 実践発表を聞き、体力の向上だけでなく、心の成長(諦めない力や挑戦する力)も同時に育むことができると改めて学んだ。

## 【本研修を受講して、今後の保育実践に活かしたいことについて】

### 園全体での取り組み、ねらい

- ・ 園全体で、めざす子どもの姿を共有し、学年ごとの成長に合った活動をカリキュラムに入れ込むなど、実践、反省、見直していきたい。
- ・ 保育教諭がしっかりとねらいをもち意識しながら、遊びや活動に取り組んでいきたい。
- ・ 身近な遊びの中に経験させたい動きを取り入れる保育の方法、苦手意識のある子へのアプローチ、子どもたちの実態をよく捉えて、経験をさせたい活動にねらいをもって取り組んでいきたい。
- ・ 年齢ごとに実態と課題を把握し、育ちに合った取り組みを考えるとともに、それを縦のつながりを見通しながら育ちを見ていけるよう、職員間でしっかりと話し合っって連携を深めていくことに力を入れたい。
- ・ PDCAで振り返りながら、短期的な目標と取り組み、長期的な目標と取り組みとして継続的な体作りをしていきたい。
- ・ 今だけではなく、今後に繋がるような遊びや保育を改めて考えていきたい。
- ・ 子どもたちにとって、保育教諭がどのような存在であることが良いのか、改めて考えるきっかけになった。園全体で情報を共有し、保育教諭の在り方を統一していきたい。
- ・ 運動感覚と五感について、追求し保育に活かしていきたい。

### 保育教諭の援助

- ・ 子どもへの言葉のかけ方のバリエーションや工夫をしたい。肯定的な気持ちになるような言葉がけや関わりを大切にしたい。
- ・ 保育教諭も、子ども達と一緒に全力で遊びたい。
- ・ 「できることが楽しい」ではなく、楽しいと思える遊びの経験ができるために、保育教諭は子ども達にとってどのような援助ができるか、どんな存在であるべきかを考え、日常的に心掛けるべきこととして意識をもち、実践していきたい。
- ・ タイミングを逃さず褒める、認める、励ます意識し、子どもの自信に繋げていきたい。
- ・ 夢中になって楽しみながら多面的経験ができる活動内容や方法を工夫し、身体感覚を高められるように、言葉掛けなどを意識していきたい。
- ・ 子どもたちの姿を見守ったり励ましたりするなど、子どもたちが「自分を見てくれている」「もっとやってみよう」と思うことができるような働きかけをしていきたい。
- ・ できるようにさせることに力をいれるのではなく、先生の一言や援助を大切にして、心への働きかけをしていきたい。
- ・ 運動の出来る、出来ないで評価するのではなく、楽しみながら取り組むことに重点を置き、運動することが大好き、楽しいと感じられるように関わっていきたい。
- ・ 発達段階を見据えながら、『子どもが育つ機会』を奪うことなく、「待つ姿勢」で見守り、できた喜びをしっかりと分かち合える援助を心掛けていきたい。
- ・ 前向きになれる声かけと、一歩踏み出せる支援を意識しながら今後の保育に努めたい。
- ・ 教材研究をしてコツやポイントを寄り添いながら正確に伝えられるようにしたい。
- ・ 身体の部位や動きに意識を向けられるような保育教諭の言葉かけ（ヒント、具体的なもの）を意識していきたい。

### 実態把握・環境構成

- ・ 子どもたちの実態や関心、意欲を適切に読み取り、必要な遊びや環境構成を考え活動の工夫をしていきたい。
- ・ 子どもが楽しむ中で“小さなできた”の積み重ねを子どもが感じられるような環境在り方を考えていきたい。
- ・ 子ども達が自分の身体を意識して、やってみようと思えるアドバイスのような言葉掛けを行ってきたいと思いました。
- ・ 遊びがワンパターン化してしまうと同じ身体感覚しか得られないので、子どもの実態把握をしてねらいを定め、意識的に誘っていく必要があることを感じた。

### 体と心の育ち

- ・ 体を動かす機会をもつ事で運動が苦手だと感じている子どもも、いろいろな体の動きを経験し喜びの気持ちやできたという達成感が次の運動への期待感につながるような援助を心がけていきたい。
- ・ クラスの遊びの様子や子どもの実態を把握し、楽しみながら行える体力向上につながる遊びや活動を考えていきたい。
- ・ 子どもたちの「心の元気」を促せられるように、小さなことから挑戦し、できた時にはたくさん褒め、できなかった時にもできるまで寄り添っていきたい。
- ・ 「できた」の積み重ねやこの活動楽しい！と思えるような環境構成や援助を工夫していきたい。また、「難しいことは面白い！」と思えるように、しなやかな心を子ども達の中に育みたい。
- ・ できる楽しさを強く求めすぎず、運動すること自体が楽しいと思える経験を十分に積めるような活動を考えていきたい。
- ・ 周囲の様々な環境に自ら関わり「やってみたい」「試したい」「わかった」と意欲を持ち安心して遊ぶ姿を目指したい。
- ・ 一人一人の実態を十分に把握し、その子なりの“体を動かすって楽しい”に出会えるように、援助していきたい。

### 遊び

- ・ 実践事例を自園にあった方法にアレンジしながら運動遊びを楽しみたい。
- ・ 相撲遊びに取り組んでみたい。「またやってみたい」「たのしかったね」と子どもたちから出るような遊びをこちらから意図的に計画し、取り組んでいきたい。
- ・ 運動会は年 1 回全体とするものと固定観念があったが、クラスでの 1 年間の取り組みをクラス独自で発表したり、表現したりする機会をもちたい。
- ・ 手軽で簡単なことから始める「やってみよう！」の挑戦から簡単な運動遊びを経験できるように日々の生活や遊びに取り入れていきたい。
- ・ 「だるまさんがころんだ」の遊びの中に、様々なポーズを取り入れていたので、ぜひ日頃の保育に取り入れていきたい。
- ・ 子どもたちがルールを考えて遊びを進めるのは、本園でも取り組みたいと感じた。
- ・ ツイスターゲームや運動すごろくは興味深く、今後取り入れてみたいと思った。
- ・ 保護者に子どもたちのできるようになったことなどを伝え、一緒に喜びを共有したり褒めたりして連携を取り、子どもの自信につながるようにしたい。

【ご意見・ご質問及び回答】なし

【その他】なし